荒尾市立府本小学校　校長便り　No.67

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年1月16日(金)

【徒然】

さて皆さん、普段の生活の中で、何か失敗をしたらどうしますか?

①自分のせいだ
②他人のせいだ
③誰のせいでもない

皆さんならどれを選ぶでしょうか。

最近感じることがあったので話題にしてみました。失敗した時ってマイナスの感情が働くのでどうしても原因を自分に見出したくはないですよね。でも、長期的に見るとこの様な傾向のある人は失敗していることが多いようです。

ある本にこう書いてありました。

「変化し得るものだけが生き残れるという自然界の法則は普遍の原理」

自分の非を認め、課題に対する改善を図り、常にアップデートしていける人は、時代に対応ができているし、人間関係も仕事もうまくやっていけるような気がします。

学校の大切な役割「社会性の育成」②

そもそも、「小学校」ってどんな所?という質問に対して、保護者の皆様はどのように答えられますか? 私たちは法に則って日々の活動を行っていますので固いお答えしかできませんが、要は集団生活を通して学力や人間関係能力を磨き、最終的には国民として人格の完成を目指すことです。ということは、甘い場面ばかりではなく、厳しい場面もあるということですね。

前号で「ルールの重要性」を伝えることも、学校の大切な役割であるということをお伝えしました。学校は集団生活を送る場所ですからルールがあります。また、学習する場所ですから、かなり細かなルールがあることは言うまでもありません。それらのルールを守ることによって、社会性を育んでいくといってもいいでしょう。そして、その学びは多くの行事で発揮されます。小学校6年間の最後の学びの発表の場は「卒業式」です。

卒業式というと、お子様の成長を改めて確認できる場といいますか、入学式から6年の時を経て、保護者として感慨に耽る場ともいえます。卒業時の子ども達は精神的にもかなり成長しており、自我の芽生えで親の束縛に対して疑問を感じ、些細なことに対しても抵抗することが多くなります。いわゆる思春期の入り口にいるわけです。では、保護者としてどのように子ども達と向き合えばいいのでしょうか。キーワードは、主体性、です。幼稚園や保育園の卒園式では、親の言うとおりに晴れ着を着せられます。しかし、小学校では違います。子ども達は自分に似合う姿をちゃんと知っていますので、卒業式で何を着るかについては、それまで見てきた卒業式や先生方の指導、友達同士での情報交換…、その様なことを総合して、「自分はこうする!」と主体的に判断するのです。子ども達はその発達段階に合った「相応しい姿」を知っているのです。他者との関わりを通して、主体性を育んでいく過程で、いつかは、親は子から離れなくてはなりません。そのタイミングはもう目の前にあります。

私の中学時代　#①
入学～実力テスト

私が中学校に入学したのは、昭和54年です。真新しい学ランに白のショルダーバッグで、熊本市立楠中学校に入学しました。当時の楠中学校はマンモス校で、1年生は13組までありました。私は1年6組です。現在のプレハブ校舎とは比べられないほどの簡単な造りでした。私達の世代は結構プレハブ校舎で過ごした時間が長かったようです。新校舎ができるというわけではなかったので、今でも楠中学校は当時のまま残っています。今でも近くを通ると色々なことを思い出します。

入学式の次の日、実力テストが実施され、12歳の私は打ちのめされます。点数による客観的な情報提供があるからです。自分の順位を見た時、驚愕…。小学校の担任の先生が話していてくれてことが、やはり本当だったのだと改めて思った瞬間でした。「これじゃいかん!」と思って、少し勉強したような気がします。危機感を持つことが重要かもしれませんね、3年後には「受験」を控えているわけですから、時間を無駄にしてはいられません。

自分でやる気を起こし、自分をコントロールしていくことを勉強するのが中学校といえるでしょう。部活などにも参加すれば、生徒達は否応なく時間と自分をコントロールしていけるようになります。というより、そうしなければ自分の夢を狭めてしまうことになるのです。危機感をもつ、これがキーワードです。

シリーズ「自分を語る」#67

熊日学童オリンピックの団体戦の準決勝です。前号で団体戦のシステムはお話しました。シングルスとダブルスがどのような順序で行われたかは、今でははっきり覚えていないのですが、準決勝ではシングルス1つしかポイントを取れませんでした。敗因は私のオーダーミスでした。相手チームにはシングルスで優勝した選手がいたことはお話しましたね。この選手と私たちのエースが対戦することになり、確実にポイントを取るための選手がポイントを落としてしまったのです。準決勝まで同じオーダーで勝ち上がってきましたので、シングルスの順序は変えたとしても、エースをダブルスにエントリーすることは考えていませんでした。しかし、考えてみれば相手は確実にシングルスで確実に取ることは当然の戦略ですね。逆に考えれば、私たちはダブルスで一勝をとるという戦略でよかったのです。そこまで考えなかったのが、私の経験不足ですね。ダブルスで一勝し、残りのシングルス2つのうちどちらかを取れば勝てたわけですから。結果は想像できますね、1対2のスコアで負けました。この時の対戦相手は結局優勝しました。その話を聞いて、私も選手も保護者も、非常に悔しい思いをしました。3位決定戦は、ストレートで勝ち、表彰式まで出ましたが、準決勝の悔しさで試合がどの様に展開されたかも覚えていません。

スポーツで勝つということは、このような駆け引きや心理戦も面白いところなのでしょうが、その中に非常に難しさを感じた経験でした。その後、数年間部活動を担当させて頂き、改めて部活動で指導者は何を伝えるべきなのか考えましたね。結局たどり着いたのは、「楽しく運動に親しむ」「運動を通じて心を磨く」「運動を通じて他者を思いやり、協力すること」の3点です。今でもそれは変わりません。玉名郡市のバドミントン協会のお仕事のお手伝いをしていた頃、マナーの悪い選手には、構わず「君はバドミントンで何を学んでいる?」と注意し、言動の確実な変容を求めていました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）